編集後記

雨量が多い梅雨が明けた後は渇水が心配な猛暑です。読者諸氏はお元気ですか。表紙の写真は伊藤敏明先生の綺麗な八重山の海で飾りました。さてトピックを概観します。「国民医療を守る沖縄県民集会」、問題の大きさが良く伝わります。国の医療制度改革は実質医療費削減政策でそのしわ寄せが高齢者や低所得者にきて、医療、介護難民の発生が懸念されます。今後の課題は反対運動の拡大化でしょう。「第1回メディカルコントロール協議会連絡会」報告から浮かび上がることは、取り組みには都道府県により地域格差が大きいことです。救急救命士の病院内挿管実習に携わった体験から推測すると本県は心配です。

「第1回地区医師会長会議」冒頭の宮城会長の挨拶に注目です。来年4月から発足する後期高齢者の全く新しい医療保険制度、保険者に課せられている特定健診、特定保健指導の問題、両者とも実施は決まっているのに中身が見えずまだ波乱もあるでしょう。念願だった医師会館建設、予算もほぼ決まりだいぶ形が見えてきました。乞うご期待です。「第104回沖縄県医師会医学会総会」会頭の新垣敏雄先生のご挨拶には歴史への深い造詣が感じられます。会も盛況であったよし次回も盛会を祈ります。

さて恒例の緑陰随筆、これが楽しみの方もおられるとのこと、十数編も並ぶと顔ぶれも多士済々です。少し舞台裏を披露しますがこれだけ集めるには苦労がいります。まず対象の方々のリスト（作り方は企業秘密？）から書いて頂けそうな方を選び、推薦人を決め依頼文を発送します。原稿を集めてまた一苦労です。趣味の話題などは無審査ですが、内容が政治的な発言や歴史認識や思想上の問題になりますと編集委員の中で採否や書き直しで議論が起きます。広報委員会で判断できない場合は理事会へ上げますが実は理事会でも意見は様々で容易に収束しません。結局は少数派には我慢して頂いて最大公約数的な結論・対処に落ち着くのですが、編集者としては解決に時間がかかっても鶴の一声や声の大きい人の独断ですぐ決着よりは良いと考えています。

関東を中心に若者達に猛威をふるった麻疹のニュースは記憶に新しいですが、それに触発されて麻疹関連の記事が多く集まりました。プライマリ・ケアコーナーの浜端宏英先生の「全数報告制度」、全国に発信したい制度です。インタビューコーナーの上原真理子先生の記事には宮古地区での麻疹ワクチン接種率向上の背景に関係者の奮闘振りがうかがわれます。緑陰随筆コーナーの遠藤和郎先生のテーマも麻疹でした。医療者養成機関において遅くとも病院実習前にワクチン接種を義務づけるべきとの提案は傾聴に値します。もう一つのプライマリ・ケアコーナーの山里将仁先生の「消毒しない・ガーゼを当てない外傷の閉鎖療法」、従来の伝統的な？創傷処置を根底から覆しています。私も臨床の現場で小児外科や形成外科の創傷処置が随分変わったと感じていましたが、理論まではわかりませんでした。「創傷治癒のメカニズム」は、説明されれば目から鱗が落ちる思いです。

城間寛先生の「新臨床研修制度」、新研修医の半数以上が県外出身者とのこと、研修医間での沖縄の人気はどうやら自然条件だけでなく「いちゃりばちょうでー」「ゆいまーる」等の言葉で表現される県民性も大きく寄与しているのではというご指摘全く同感です。金城福則先生執筆の生涯教育「大腸癌」と「大腸がん検診」、精度管理が良ければその効果が十分に期待できる事業とのこと、食生活の西洋化が進んだ沖縄、長寿県復活を目指す沖縄の早急の課題でしょう。若手コーナー原田宏先生の「若い医師諸君へ」、文末のまとめの7か条沖縄のすべての研修医に読ませたいです。そろそろ紙面が尽きようとしています。ここでは取り上げることができなかった多くの執筆者達にも最大の感謝をこめて筆を置くことにします。

広報担当理事　村田　謙二